

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070102007		
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホームなでしこ		
所在地	群馬県 前橋市 関根町 2-7-3		
自己評価作成日	令和 7 年 9 月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和 7 年 10 月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

農家様の支援を頂き、今年も色々な野菜の苗の植え付け・水やり・収穫・お料理をして試食迄体験して頂ける様に支援していきます。今年は畑で採れたスイカでスイカ割りを楽しんで頂こうと計画しています。

イベントも出来る限り計画していこうと考えてます。

ユーチューブを活用して身体を動かす時間を作り何時でも運動が出来るようになりました。

家族様との連絡や利用者様の日々の様子が写真・動画で常時発信しています。

中学生の職場体験やこども園あおぞら北慰問もあり、地域との交流もあります。

ホーム長が交代したが、前ホーム長が目指していた個別ケアを継続して行おうとする心構えを感じた。事業所は長年地域の協力が得られており、今回の訪問調査でも変わらぬ地域との交流が確認できた。新ホーム長は前ホーム長が努力してきたことに加えて、新たな新鮮な目で利用者や職員に接していこうという思いがあり、そこから新しい気づきが生まれ、実践に生かそうとする様子もうかがえた。理念に関しては新ホーム長が新たに提案している最中である。内容的には利用者が過ごしやすくプライバシーが守られ、職員にとっても働きやすい等のグループホームの目標が盛り込まれている。既にプライバシーに関しては利用者への配慮が生かされているので、今後一致団結して理念の具現化に取り組んでいくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念の唱和を行い、理念の唱和に繋げている。	新ホーム長が新しい理念を作成中である。利用者の安心とプライバシーを大切に、職員も働きやすく、ホーム全体を新しい目で見渡し、独自色を掲げたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こども園の慰問が年2回あり、中学生の職場体験もあります。 利用者様が育てた野菜を近隣住民にも配布している。	長年変わらずに地域住民の協力が得られている。利用者と住民と一緒に畑を耕し、野菜の植え付けやジャガイモの種まき等、収穫までを楽しんでいる。中学生の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の知識や対応方法などの資料を配布・説明し、理解が得られる様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者様の状態報告・取り組み・ヒヤリハット・事故報告などの事例を報告し、参加者からの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族・地域包括の職員・自治会役員等が出席し、現状・行事報告、写真を見ながらの活動報告、事故報告等を伝えて、意見交換を行っている。	家族の参加が無い開催回が多いので、参加できるような工夫をしてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報メール等で連絡を取り合い、運営推進会議の参加もして頂いている。 利用者様においては毎月広報まえばしを配布している。	市との連絡等は法人の課長が担当し、連携を図っている。また、ホーム長兼ケアマネジャーが認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の議題にあげ職員に周知しており、身体拘束を行わないよう取り組んでいる。(年4回身体拘束適正委員会を開催)玄関の開錠については、家族からの要望や地域からの意見もあり、実践には至っていない。	玄関は安全上施錠しており、共用空間との境の引き戸も施錠している。スピーチロックに関しては、拘束にあたらぬ声かけを心がけている。定期的に勉強会を行っている。	外に出たいと希望する利用者の場合には、職員と一緒に気分転換をする支援につなげてはいかがか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にあげ職員に周知し、どのような行為が虐待になるのか等勉強会を実施している。 ジョブメドレー(eラーニング)を活用し、毎月動画研修を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や研修で学ぶ機会がある。 現在該当制度を利用されている利用者様はいないが、必要であれば活用をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、利用者様や家族様に不安・疑問点を尋ね十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議で意見要望を話し合っている。 又、直接話しにくい事は、玄関に設置してある意見箱の活用を行っている。家族様とライン交換しているので、常時意見を言って頂ける様に心かけている。	家族とはLINEで利用者の様子を動画にあげたり、訪問時に意見を聞いている。利用者からは七夕の短冊や日常的に意見や希望を聞いており、「うれしい」「ありがとう」と言ってくれるので、職員は応えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・要望は職員会議の際、資料としてまとめ話し合いを行い、生産性向上・業務改善等を行っている。	月1回の職員会議では意見や提案を発言しやすい雰囲気作りを心がけ開催している。肘掛椅子が少ないので用意してほしい等の意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行っている。 職員を個別評価し、人事考課をもとに職員・管理者・課長で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ジョブメドレー（オンライン動画研修）を通して学んでいる。 職員会議にて接遇について話し合い、職員がスキルアップできるように十分に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列のグループホームと意見交換やお手伝いに行き、他の事業所の取り組みや業務内容を参考にしサービスの向上に努めている。 ユーチューブで他の事業所のイベントなども参考にし、利用者様に楽しんで頂いてい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様の状態確認やご家族様やケアマネージャーからの聞き取りや確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時等、ご家族からの要望等、話し合いを行い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネージャーが、利用者様・ご家族様からのアセスメントを行い、必要な支援をケアプランに反映できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来ることは可能な限り本人にして頂き、できない事はサポートし、共に寄り添って暮らしていける信頼関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が安心して暮らしていける様に、LINEでご家族様に写真・動画で報告を行っています。 理容・訪問歯科の拒否に対してLINEの動画で協力して頂いてます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を傾聴し、家族・友達・知人等の電話・面会は可能な事をお伝えし、関係が途切れないように努めている。	食事の好みによりパン食に代替にしたり、家族からの差し入れを利用している。洗濯物干し・たたみ・テーブル拭きやお茶入れ・カーテン閉め等のお手伝いや、YouTubeで歌謡曲を聞いたり、電話の取次ぎ支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、ホールで食事・体操・レクリエーションで利用者様同士の人間関係が円滑になる様に職員が見守り、関わり合い支える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも必要に応じて、相談や支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で本人様が臨む生活や思いを把握できるように努め、職員会議やカンファレンスで話し合いを行っている。	ホーム長がケアマネジャーを兼務しており、利用者との日常会話や居室で時間をかけて意向等確認している。家族からは、面会時や電話等で希望を確認し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の時代背景や、これまでに暮らしてきた環境、家族背景をご家族様の話や、ご本人の言動から把握し、生活環境を整え安心して、その方らしい生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報を共有し、スコップに入力し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。職員会議で利用者様の状態に合わせた対応を話し合い検討している。	モニタリングは月1回実施している。介護計画については、アセスメントと共に3ヶ月毎に見直しを行っている。また、状態変化時には、随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SCOP(電子記録)に日々様子を入力し、職員会議で情報の共有や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うに当たり、一人ひとりに合ったサービスの提供に心がけ、マニュアルに束縛されずに柔軟性を持って、個別の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており関根町広報が毎月届いている。 地域の方やこども園・中学校との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明を行い、今までのかかりつけ医を継続的に利用するか、なでしこのかかりつけ医に移行するかは選択出来る様にしている。 月2回の往診で健康管理が	契約時に事業所には協力医がいることや入居前のかかりつけ医も継続できることを説明し、選択してもらっている。協力医による月2回の往診がある。専門医等の受診は基本的には家族支援である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の連携保間があり健康管理を行っている。 介護職員から看護師へ随時連絡・相談が出来る様な体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は安心して治療に専念できるように家族・病院関係者と密に情報交換し、速やかに退院出来るように、常に病院関係者との関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・ご家族様を含めて、重度化や終末期を説明し、重度化の場合かかりつけ医の対応と、終末期・危篤時には家族と協議し、かかりつけ医と連携して、方針を共有している。	医療を必要とせず、家族の希望があった場合、協力医の判断の基、家族・事業所で話し合い、事業所の「看取りの指針」に添って対応することを共有している。段階的に意向の確認も行うが、現在対象者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを職員会議で確認し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回自主訓練を行い、年2回総合消防避難訓練(日中・夜間)を行い、避難経路・避難場所の確認を行っている。	ハザードマップ上では水害が想定されるため、消防署立会いも含め、年2回の避難訓練と毎月自主訓練を実施している。車椅子使用者が多く、早目の避難を決めている。食料品、水、排泄用品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護しているのではなく、お世話をさせて頂いているの精神で、一人ひとりの人格を尊重し、その人の性格を把握し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応を行っている。	一人ひとりと向き合って、できることややりたい事の支援に努めている。食事の代替品の提供等を支援している。言葉遣いにも気を付けて、利用者間の関係性や異性介助の際も配慮ある対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせずに、希望や想いを発言できるように働きかけ、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調気分を把握し、その日どのように過ごして暮らしたいか、本人の希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、本人の好みの服装や身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が育てたお野菜を収穫し、その野菜を使って職員と一緒に調理して頂いている。 出来る方には下膳もして頂いている。	時期によっては収穫した野菜が1品添えられる。献立表は利用者が書き、職員も一緒に同じものを食べている。行事食や誕生会では食べたいものを提供しノンアルコールの提供も行い楽しい食事支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スコープに食事量・水分量を入力し管理している。 食事の状態以小皿に分けたり、ワンプレートで提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声掛けを行っている。出来ない方は職員と一緒にやる。 訪問歯科の定期健診があり、口腔内の状態を定期的に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スコープで排泄チェックを行い、職員会議で話し合い、本人様の状態に合わせたパット類の検討やトイレ誘導の対応方法等を検討し実施している。	日中はトイレでの排泄を基本としている。見守りや誘導、おむつの人でも起きられれば誘導している。利用者の状態に合わせて支援している。失禁した利用者には配慮ある対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の入力を行い、利用者様に合わせて飲み物を工夫し、水分摂取が出来るように行っている。主治医指示の下で下剤で調整を行っている。おやつ後はラジオ体操・ユーチューブで体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様本位で入浴の声掛けや、本人の希望に合わせて入浴支援を行っています。	午前中ゆっくり職員と1対1で本人の気持ちに沿って週2回を目安に実施している。異性介助等で拒否のある場合には職員を入れ替え利用者に選択の機会を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠状態を観察・把握して、状態に応じて寝具・室温・照明・衣類の調整を行い良眠が出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬剤情報提供書を職員が閲覧出来るように管理を行っている。症状の変化に気を配り医療連携を基に、常に主治医看護師との協力を仰ぎ服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事・誕生日会・ゲーム・体操・畑仕事の参加・読書・パソコンゲーム・テレビのドラマ鑑賞とその方に合った支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化に応じ、天候やその時の利用者様の体調を把握し、近隣のお花見・日光浴・畑仕事を楽しんでいる。	地区の行事である祭りに招待状をもらい、席も配慮され、利用者と職員が参加できる企画をいただいた。日常的には散歩や畑仕事で外に出る機会がある。時期の花見に出かけている。	そろそろ外出の機会をコロナ禍前に戻し、日常的な外出支援を工夫してはいかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者様はいません。預り金としてホームで管理し本人様の希望で使用出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族様と相談し、iPadで何時でもオンライン面会・電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はその月の行った行事の写真や季節に合った飾りつけもしています。また、嫌な臭いにも気をつけて対処しています。	掃除が行き届き、不快な匂いもなく明るく清潔である。季節の飾り物と行事の写真が掲示されている。キッチンからの食事作りの香りがして、食欲をそそっている。居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の行動を抑制せず、ご本人の意思で自由にホールや居室で過ごして頂ける様な声掛けや雰囲気を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒や趣味のものなど、なるべく自宅での生活環境と変わらないように配慮している。ご家族様の要望も取り入れてます。	エアコンとベッドが備え付けられており、そのほかは自宅にあったものを持参してもらい自宅に近づけたいと考えている。タンスやロッカー、衣装ケース、座椅子、テレビ、テーブル・文庫本や小説、身の回り品が持ち込まれており、個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで手摺りやスロープも設置し、安全に過ごせるように環境作りを行っています。居室の名前やトイレの表示も分かりやすいようにしています。		